



平成24年度 第1回 文部科学大臣賞を受賞して 茨城県立古河第二高等学校 校長 山川博先生

文部科学大臣賞という栄誉を受け心より喜んでおります。そして、「君たちの日々の地道な努力を見守り、励まして下さる方々がいらっしゃった」ということを生徒一人一人に伝える機会を与えていただいたことに感謝しております。誠にありがとうございました。

本校は、大正3年創立の今年で98年目を迎える伝統校です。卒業生は2万1千人を超え、各界で活躍しています。これら卒業生の支援を受け、恵まれた教育環境や整った施設設備のなかで生徒は澁刺と活動しています。また、学校の教育目標の中に「社会性の涵養」を掲げ、あいさつの励行や校舎内外の美化活動を通じ、一人一人の規範意識や道徳性の向上を目指しています。



本校では生徒の進路希望は多岐にわたり、生徒の興味関心による科目選択ができるよう工夫しています。たとえば、普通科においては、1年生は全員共通の科目を学びますが、2年生からは類型Ⅰ(大学・短大への進学希望者向け)と類型Ⅱ(専修学校などへの進学希望者と就職希望者向け)の2つのコースに分かれ、基本的な学力の定着を前提として、より質の高い授業を受けています。また、茨城県内で唯一の福祉科が設置されており、福祉科では、普通教科だけでなく福祉に関する専門知識と技術を学ぶことができます。卒業時には、「介護福祉士国家試験」の受験資格が与えられ、特別養護老人ホームなどの福祉施設で活躍することができるのです。

今年度、本校では、「重点目標」の一つに「学習意欲の喚起と基礎学力の向上」を掲げ、教育活動を展開してきました。特に、国語科では、「学び直し等生徒の基礎学力向上への取り組みや支援を積極的に推進する」ことを喫緊の課題として捉え、その指導の一助として各種検定試験への挑戦を生徒に指導してきました。

「日本語検定」に挑戦したのは主に類型Ⅱの3年生です。国語の授業を利用して「漢字の書き取り」や「ことわざ」などのドリル学習に取り組むとともに、日々の生活の中で、読めない漢字に出会ったり、ことば遣いに困ったりしたら、必ずその機会を捉えて漢字の読みを調べ、適当なことば遣いを考えるよう指導してきました。

一方、クラス担任も、毎日、朝のホームルームの時間を利用して「ドリル」を実施し、生徒が継続して日本語(国語)学習に取り組むよう励ましてきました。また、生活指導の一環として、全校で取り組んでいる「あいさつ励行」の指導が生徒の日本語(国語)やことば遣いへの関心を喚起し、日本語(国語)学習の意欲を支えてきた点も見逃せません。

「日本語検定」では、単に漢字力や語彙力などの知識だけが問われているわけではありません。日常生活の場面に応じたことば遣いや日本語や日本文化への関心の深さなども問われているのだと思います。つまり、「日本語検定」の指導では、教科指導だけではなく、日々の生活指導や家庭内教育も重要な位置を占めているのではないのでしょうか。



生徒が社会人として自立するためにも、日本語(国語)によるコミュニケーション能力の獲得は最重要な課題であると考えています。今回の受賞を励みとして、生徒はもちろんのこと、全教職員、保護者ともども日本語(国語)の学習に精進、努力していきたいと思っています。